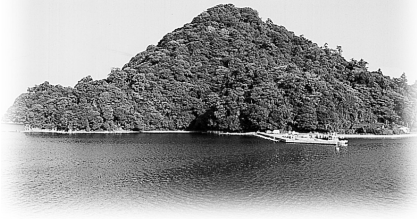


十神山



会 報



安 来 節

YASU

GI

BUSHI

発行所 安来節保存会

☎ 692-8686

島根県安来市安来町878-2

TEL 0854-23-8220

FAX 0854-23-8221

http://fish.miracle.ne.jp/~y-hozon

E-mail:y-hozon@tx.miracle.ne.jp

上 位 昇 格 者

— 大師範 (二十二名) —

絃 小池 孝子 (本部道場)
唄 川井 祐治 (出雲)
唄 中村 瑞子 (湖陵)
唄 三原 博信 (大社)
唄 河野 千鶴子 (浜田中央)
唄 後藤 智久 (斐川)
鼓 扇 泰江 (益田)
絃 大屋 久美子 (三階)
絃 福本 富江 (鳥取中)
唄 野田 京子 (米子中)
絃 渡辺 隆司 (新見)
唄 安田 紀代子 (真庭)
唄 森田 才治 (米子)
鼓 田中 則之 (津ノ井)
鼓 永見 熊寿 (益田)
鼓 雲州 将行 (平田)
絃 羽根 田良三 (斐川)
唄 嘉藤 京市 (大社)
踊 太田 清 (宍道)
絃 平滝 正美 (石見)
唄 渡部 香寿子 (本部道場)

(総会資料名簿順)

— 名人 (二名) —



上代 茂則
唄の部 (大東)



仲前 長治
唄の部 (米子中)



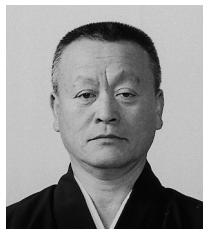
渡邊 怜子
唄の部 (米子)



富田 幸男
絃の部 (松江)



野坂 守男
絃の部 (本部道場)



野坂 亮若
絃の部 (津山中央)



五代目 富田 徳之助
絃の部 (智頭)



狩野 忠
絃の部 (湖陵)

— 准名人 (六名) —

会 員 表 彰 者 (52名)

末廣 治恵 (本部道場)
森廣 道治 (本部道場)
小谷 英雄 (出雲)
藤間 薫 (石見)
寺松 美代子 (大田)
植松 一央 (大田)
山本 克己 (鹿足)
永瀬 誠治 (加茂)
勝部 明美 (神門)
鎌田 孝子 (湖陵)
成相 栄一 (宍道)
植田 陽二 (宍道)
林 節子 (大社)
中山 文子 (大社)
谷口 フジエ (那賀)
藤井 茂男 (仁多)
山口 安人 (浜田)
石本 良子 (浜田中央)
小川 美津子 (浜田中央)
鎌田 伸男 (斐川)
白上 定省 (益田)
城市 典男 (益田)
村上 勘造 (益田)
米森 智恵子 (益美)
大石 照子 (益美)
二代目 高山 保子 (松江)
小早川 富夫 (松江)
香口 一子 (瑞穂)
内藤 勝子 (三階)
宮本 浩子 (尾高)
浅田 英樹 (大山)
保田 容来 (智頭)
早瀬 輝子 (智頭)
多村 幸男 (津ノ井)
柴田 潤一 (東伯)
穂久 潤一 (東伯)
五反田 東志子 (鳥取)
安達 砂智子 (法勝寺)
原 郁子 (米子)
都田 三鈴 (米子)
野田 怜子 (米子中)
徳永 敏子 (江島玉美)
福馬 敏子 (江島玉美)
金行 哲夫 (広島東)
浜本 久子 (広島南)
大西 扶企子 (津山中央)
尾崎 洋子 (真庭)
田中 京子 (真庭)
藤本 京子 (山口)
渡部 房子 (伊予道後)
井上 浪子 (松山)

(総会資料名簿順)

かわ そい たつ や 河添達也氏 (作曲家) ▶ プロフィール

島根大学教育学部特音課程作曲専攻卒。フライブルク音楽大学大学院で作曲・指揮を学び、シエナ・キジャーナ音楽院夏期作曲マスタークラス修了。1996～'97年オーストリア政府給費、ウィーン国立音楽大学作曲家客員研究員。

第2回現音作曲新人賞コンクール第1位、第12回国際作曲賞「入野賞」審査委員会特別作曲家の他、2002年度、中国地方の最も国際的活躍が期待される音楽家に贈られる「第8回エネルギー音楽賞」を受賞。

我が国最大の現代音楽祭「秋吉台国際現代音楽セミナー&フェスティバル」事務局長も務める。

現在、島根大学教育学部助教授として、作曲・理論の講義およびオーケストラ指導などを受け持っている。

①音組織・構造・形態
(旋律、リズム、音階、形式、形態)
②発声・声
③教育
④音の背後にあるものと題した項目を中心に、若者の聴く音楽の中には民謡に似たテンポがあるなど、音源を使っているの解説や図やピアノを使っているの説明で、大変わかり易く唄の事についてお話をさせて頂きました。



去る十月十三日、安来市立中央公民館において、島根大学教育学部の河添達也先生を講師にお招きし、「民謡の持つ力に迫る」と題して講演を頂きました。先生には主に、①音組織・構造・形態(旋律、リズム、音階、形式、形態)②発声・声③教育④音の背後にあるものと題した項目を中心に、若者の聴く音楽の中には民謡に似たテンポがあるなど、音源を使っているの解説や図やピアノを使っているの説明で、大変わかり易く唄の事についてお話をさせて頂きました。

講演後、指導部による研修も行われました。講演終了後、多数の会員の方からも、「大変勉強になった」「大変参考になり、指導するにあたり役立つ」など良かったという意見を頂きました。

平成15年度 安来節保存会 大師範以上研修会

講師 河添達也先生 (島根大学教育学部助教授)
演題 「民謡の持つ力に迫る」
～安来節の楽曲分析～
～西洋音楽との比較を通して～



安来節全国優勝大会において安来節の普及宣伝の為、他団体との交流やOBCラジオ大阪「民謡コスモス」収録の様子



前川流リズム太鼓 夢の会の皆さん



翔田ひかり
民謡ショー



見事、踊の部で3級を取得!!
翔田ひかりさんと
原田年晴アナウンサー

～ 熱演甲子園～

平成14年度 安来節全国優勝大会



開 会 式

「平成十四年度安来節全国優勝大会」が、例年どおり八月十五日から十七日の三日間にわたり、安来市民体育館で盛大に開催されました。

今年は三日間ともゲストをお迎えし、初日は隠岐民謡名人位の古賀速水さんに隠岐民謡を、二日目は松村益男さんに出雲追分等を披露して頂きました。

そして最終日には、今回特別にラジオ大阪「民謡コスモス」のパリソナリティの翔田ひかりさん（民謡歌手）とラジオ大阪アナウンサー原年晴さんによる、踊の部の資格審査の後、翔田さんによる民謡ショーを開催し、会場は割れんばかりの拍手でした。

また、昨年から好評の銭太鼓には静岡県の「前川流リズム太鼓 夢の会」の皆さんに、安来節の銭太鼓とは違う妙技を存分に披露して頂きました。



— 平成14年度 安来節全国優勝大会入賞者 —

団体の部

優勝 松江支部
唄 二代目高山保子
井上美紀子
絃 岡田孝治夫
鼓 喜多中輝夫

準優勝 関西支部
唄 岩崎美智子
新元みつ子
絃 北村朋子
鼓 西村サツ子

第三位 本部道場
唄 森廣治恵子
渡部香寿子
絃 小池孝雄
鼓 藤井幸雄
一字澤千登世

奨励賞 神門支部
唄 片寄克子
野坂恵子
絃 五明田朝吉
鼓 勝部明美夫

奨励賞 湖陵支部
唄 永田みゆき
佐藤孝行
絃 鐘推好朝生
鼓 林村俊

抽選会ご提供社名

(株) 山陰放送
渡部印刷 (株)
和幸電通 (株)
島根県石油(協)
安来支部
(有) 小川かまぼこ
ギフトセンター丸新
さぎの湯 荘
長谷川染物店
安来節 屋
(順不同・敬称略)

部門 資格	順位	唄		絃		鼓		踊	
		支部名	氏 名	支部名	氏 名	支部名	氏 名	支部名	氏 名
師 範	優 勝	湖 陵	中 村 瑞 子	斐 川	山 下 一 幸	湖 陵	周 藤 伏 子	湖 陵	周 藤 伏 子
	準優勝	加 茂	妹 尾 な お み	津 ノ 井	古 本 明 美	関 西	西 村 サ ツ 子	大 東	永 井 治 夫
	第三位	松 江	二代目 高山保子	益 美	波 佐 本 暹 行	湖 陵	永 田 み ゆ き	本部道場	増 田 惣 市
	奨励賞	広 島 東 部 道 場	山 本 英 三 糸 乃 子 造	本部道場 湖 陵 江 東	小 池 孝 子 宏 子 治 勝	大 米 神 大 島 東	川 門 野 石 山 本 英		
准 師 範	優 勝	松 江	古 賀 速 水 恵 子	大 阪	田 中 佐 知 幸 治	広島玉実	平 本 真 理 子	山 口	大 野 良 雄
	準優勝	広 島 中	宮 川 雅 恵 子	仁 多	深 田 英 治 治	大 社	佐 貫 啓 吉	湖 陵	吾 郷 芳 信
	第三位	伊予道後	越 智 咲 子 一 鶴 子	大 東	新 田 啓 治 治	益 美	波 佐 本 暹 行	松 山	徳 本 東 夫
	奨励賞	米 子 本 部 道 場 社	藤 原 藤 紀 美	松 津 島 中 取	石 岡 涼 美 江 子 明	平 島 智 島 頭	三 島 章 完 一 子 小 島		
三 段	優 勝	神 門	永 瀬 文 雄	本部道場	持 田 順 子 夫 静	松 江	曾 我 友 久 香 郎	関 西	中 野 一 郎
	準優勝	本部道場	永 田 美 由 紀	神 門	阿 部 三 夫 静	湖 陵	周 藤 絵 梨 三 郎	湖 陵	木 村 久 美 子
	第三位	鯉 城	長 部 千 春 佳 之	米 子	原 明 由 紀 彦	松 江	佐 藤 武 三 郎	松 山	若 松 文 子
	奨励賞	松 江 加 茂	古 瀬 山 朋 之	本部道場 松 江	永 安 達 哲	加 宮 島	永 堀 誠 治 邦		
二 段	優 勝	神 門	内 藤 和 美 雄	本部道場	松 崎 耕 士 奈 利	穴 道 場	古 澤 三 男 治 男	大 東	小 村 仍 男
	準優勝	本部道場	桑 田 民 雄 勲	神 門	和 田 美 奈 子 利	本部道場	相 見 治 博 子	本部道場	藤 井 延 枝
	第三位	湖 陵	吾 郷 一 綾 子	米 子	田 中 美 知 正 男	境 港 東	松 佐 本 龍 子 夫	大 阪	向 井 シ ズ エ
	奨励賞	尾 関 高 西	田 中 谷 綾 子	神 東 京	内 楯 知 正 男	益 湖 美 陵	波 藤 原 勇 夫		
初 段	優 勝	岡 山	藤 吉 ゆ か り	加 茂	勝 部 伸 哉 美 子	本部道場	松 崎 耕 士 子 利	山 口	山 片 弘 子
	準優勝	神 門	三 島 春 美 子	湖 陵	神 在 真 奈 美 子	大 社	木 村 中 美 利 子	松 山	藤 原 勝 美 三
	第三位	瑞 穂	藤 川 と し 子	岡 山	徳 森 勝 二 子	米 子	田 中 美 利 子	関 東	後 藤 省 三
	奨励賞	本部道場 江田島能美	松 本 治 典 輝 子	境 港 東 山	都 三 宅 修 和 子	湖 津 山	古 梶 山 純 子		
一 級	優 勝	広島玉実	石 出 長 子	加 茂	陶 山 朋 之 香 子	松 江	吉 三 島 和 男 子	加 茂	勝 部 伸 哉
	準優勝	松 江	小 豆 澤 玲 子	神 門	小 川 雅 子	神 門	三 島 和 男 子	法 勝 寺	小 西 邦 明
	第三位	大 東	伊 藤 春 美 子	広島玉実	今 川 雅 子	広島玉実	石 出 長 子	東 京	旗 谷 美 津 子
	奨励賞	穴 道 場	小 村 恭 一 子	本部道場 境 港 東	上 高 崎 美 紀 子	松 穴 江 道	福 間 久 枝 子		
二 級	優 勝	関 西	村 井 郁 子	神 門	春 木 薫 奈 子	関 西	三 上 智 子	湖 陵	杉 原 建 自
	準優勝	本部道場	伊 藤 真 智 子	松 江	長 瀬 浩 奈 子	大 東	大 澤 悦 子	山 口	大 村 薩 男
	第三位	関 西	中 村 和 子	関 西	木 下 有 子	関 西	高 木 孝 夫	東 京	遅 野 井 博
	奨励賞	江田島能美 広島玉実	新 山 美 知 子	加 大 茂 田	陶 山 橋 め ぐ どり	境 港 東 門	横 寄 藤 ゆ かり		
初 少 段 年 一 少 級 年 二 少 級 年 三 少 級 年	優 勝	松 江	前 澤 真 奈 子	本部道場	小 原 忠 実 里	湖 陵	周 藤 翔 平 子	湖 陵	周 藤 翔 平 子
	準優勝	湖 陵	藤 原 愛 実 悠 子	米 子 中	三 内 優 里 平 恵 子	湖 陵	周 藤 真 理 子	岡 山	藤 原 祥 吾
	第三位	松 江	安 達 美 悠 子	湖 陵	周 藤 翔 平 恵 子	松 山	山 影 春 奈 子	本部道場	高 塚 大 輝
	奨励賞	湖 陵	中 村 華 代 花 子	鹿 足	齊 藤 有 砂	松 江	前 澤 真 奈 子	岡 山	平 松 昌 宏
初 少 段 年 一 少 級 年 二 少 級 年 三 少 級 年	優 勝	東 伯	赤 坂 結 一 星	本部道場	上 廻 有 砂			真 庭	佐 藤 純 平
	準優勝	関 西	井 崎 一 星					真 庭	前 田 和 馬
	第三位	本部道場	上 廻 有 砂	斐 川	細 田 佳 菜 恵 子	湖 陵	磯 田 智 志 咲 子	湖 陵	藤 原 聖 典 穂
	奨励賞	関 西	若 林 唯 唯	那 賀	渋谷 大 久 佐 姉 利 恵 子	松 山	山 影 実 咲 子	関 西	渡 辺 美 穂
初 少 段 年 一 少 級 年 二 少 級 年 三 少 級 年	優 勝	湖 陵	中 村 朝 一 太 花	鯉 城 伯	長 谷 川 理 恵 子	関 西	若 林 唯 唯	関 西	若 林 優 季
	準優勝	鯉 城	高 井 崎 彩	東	赤 坂 結 花			湖 陵	磯 田 雅 人
	第三位	関 西	井 崎 一 星					湖 陵	小 林 雅 人
	奨励賞	関 西	井 崎 一 星					湖 陵	小 林 雅 人

ご協賛披露

安来市長賞 各優勝者

山陰放送賞 各優勝者

NHK松江放送局長賞 各優勝者

日本海TV放送杯 各優勝者

清水・さぎの湯 各優勝者

安来市商工会議所会頭賞 各優勝者

二段の部 各優勝者

JAやすぎ組合長賞 各優勝者

安来市教育長賞 各優勝者

足立美術館賞 各優勝者

大新東賞 各優勝者

安来市観光協会会長賞 各優勝者

VLC賞 各優勝者

安来特産品組合賞 各優勝者

山陰中央テレビ放送杯 各優勝者

金鳳賞 各優勝者

西村堂賞 各優勝者

宗光賞 各優勝者

審査員特別賞 各優勝者

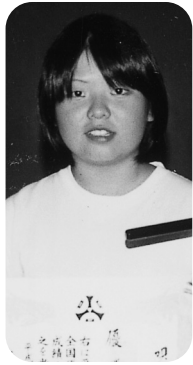
師範の部 各優勝者

少年の部 初段優勝者

私は、祖母と姉の影響で、育所のときから教室に通うようになり、今年で十一年目になりました。

今年の優勝大会は、練習不足で「あー無理だあ。」と思っていました。なのに、まさか優勝できるなんて！ すごくビックリしました。

これを機会に、もっと練習して来年も優勝できるようにがんばりたいです。



唄優勝
前澤真奈
(松江支部)

師範の部 優勝者

優勝の瞬間、今は亡き父と何十回も通ったこの大会の思い出が、走馬灯のように頭の中を駆け巡り、とても信じられない気持ちでした。

また、支部の皆様をはじめ、私を応援して下さいましたすべての皆様に心から感謝したいと思いました。

今後は、名古屋に居りますので安来節の普及にも努力して参りたいと思います。



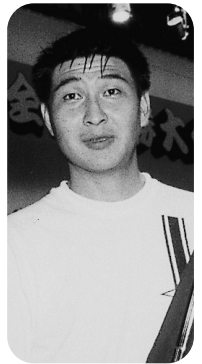
唄優勝
中村瑞子
(湖陵支部)

優勝が決定した瞬間、「本当かよ。」と言葉にしたのを覚えています。心の隅に「ひよつとすると」とは思いつつ、それが本意ではありませんでした。

昨年師範に昇格し、奨励賞を頂き、二年目という短い期間で優勝したという事で、この先大会に出場できない事は私にとって考えさせられます。

私自身まだまだ勉強不足で納得いく三味線を弾く事が出来ていません。従って優勝した事で満足する事は決してありません。

この優勝を静粛に受け止め、歴代の優勝された諸先輩方の名を汚さぬ様に、益々精進する事が自分自身に課せられた責務であると思っております。



絃優勝
山下幸
(斐川支部)

僕は小さい頃、おじいさんの車に乗ると、テープで三味線を聴いていました。

小学校の時発表会で、童謡を吹いて先生にほめられてやる気になりました。

安来節の全国大会が安来であると聞いたので、大会に出ることを目標に三味線を始めることにしました。保存会に十歳で入会し、大会には毎年出場し、優勝二回、入賞二回、今年は初段の部で優勝してうれしく思いました。

これからもがんばって上位を目指し、保存会の発展にがんばります。



絃優勝
小原忠実
(本部道場)

予選会を通過する事が私の目標でしたが、幸運にも鼓・踊の部と通過し、全国大会に臨んだ私でした。

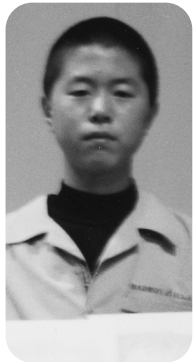
途中で失敗しないようにと、ただ一生懸命でした。

二部門優勝出来た事は、最高の喜びです。ご指導頂いた先生方、そして応援して頂いた皆様のお陰と感謝しています。

これからも頑張りますのでよろしく願います。



鼓・踊優勝
周藤伏子
(湖陵支部)



鼓・踊優勝
周藤翔平
(湖陵支部)

二年連続して優勝でき、最高の喜びです。

少年部の最後に、素晴らしい思い出となりました。

来年から、大人の部です。より以上がんばりますのでよろしく願います。

指導していただいた先生、支部の皆様ありがとうございました。

安来節グッズ発売中!!



ザル・ビク 12,000 円 銭太鼓 2,800 円
衣 裳 15,000 円 前掛・鉢巻 4,000 円
(鼻当て・豆しぼり付) (税込・送料別)

他にもいろいろ取り揃えております。

問い合わせ 安来市観光協会
安来節保存会

団体の部 優勝チーム



松江支部の皆さん

左より 田中輝夫さん 喜多孝治さん 井上美紀子さん
二代目 高山保子さん 岡田 栄さん

安来節全国優勝大会 記録ビデオ

1991年～2002年の毎年3日間の競演

放送用カメラで撮影

高品位な
映像

迫力の
音質

VLC 〒690-0012 松江市古志原 2 丁目 9-60 ヴィエルシー株式会社
TEL (0852) 27-7700 FAX (0852) 26-8132 Email: vlcnnet@joho-simane.or.jp

私と安来節



資格審査員
二代目 渡部 音吉

私と安来節の出会い、私の父が楽器好きで、三味線、大正琴、ヴァイオリン、ハーモニカ等を奏でておりまして、その中の三味線と大正琴を習い始め、安来節やその他の民謡を習いました。

私と安来節

私と安来節



副指導部長
安達 友之

私が安来節を習うきっかけとなったのは、高校二年生の秋でした。

当時、安来高校の山岳部に在籍し山を征服しようと、毎日練習に励んでいる若者でした。そうした折、岡山県で開催された中国大会に島根県代表として出場することになりました。

そして、地元の歓迎会で、安来から来られた安高山岳部の皆さんには「安来節とドジョウ掬い」を、是非やって下さいと要望がありました。しかし、ドジョウ掬いどころか安来節など一度も歌った事はあ

後に本格的に初代渡部音吉師匠の門下生になりました。昔は意東支部がありましたので、そこへ入会し、支部の皆様と和気あいあいでおりました。

昭和三十八年六月二十四日、初代渡部音吉師匠死去により、師匠の棺の前にて師匠の友人の方が「名前は？」と聞かれ、献歌を捧げられる際に伴奏をさせて頂き、その日に二代目渡部音吉を襲名させて頂く事になりました。

支部は解散になり、少し休会期間がありました。諸先生方のお世話になりました。一生懸命学んで参りました。そ

りません。

しかし、ここで引込む訳にはいきません。団員と相談し、板垣君がドジョウ掬いを、私が安来節を、他の団員が手拍子で会場を盛り上げる事になりました。子供の頃から酒席の場所で大人が楽しく手拍子に併せ銭太鼓や安来拳、ドジョウ掬いをよくやっていたのを側から見た程度ですが、見よう見まねの安来節を披露し何とかその場を切り抜けました。でも会場からは、拍手喝采の盛り上がりでした。

その時、安来節を習ってあげばこうした場所でも役に立つと痛感し、早速安来に帰ると安来芸文学院（高野静子先生）で土曜日に習うよう申し込みをしました。

その事が親戚の細田捨夫さん（二代目安達順吉師匠）にわかり、三味線をやってみろと勧められました。私も三味線をやってみたい、父に祖父の持っていた三味線を修理し

の間に弟子さんも多くなり、皆さん頑張ってお下さり大師範、師範と多くの方に昇格して頂く事ができました。

安来節保存会のお陰で他県のお方との交流ができ、他県の民謡に触れ、勉強させて頂きました。改めて安来節の奥の深さを感じているところでございます。

唄も同じ事と思いますが、いくら三味線を弾いても弾いても学ぶ心は一生懸命と思いつく。

今後は会員の皆様が仲良く、心楽しく学びあつて全国各地の皆さんに安来節の輪を広げようように願っております。

て欲しいと頼みましたが、父は私が三味線をする事に反対しました。

当時、農村では芸人は、さげすまれる風習がありました。それでも、私はやってみたく、父に懇願をしました。その時、祖母が「友之がそこまでイッチョウし、今津のオツツアンなら預けても大丈夫だ」と、父を説得し、三味線を修理してくれました。昭和四十年の正月、三味線をもって、師匠二代目安達順吉氏に師事しました。

皆様も多分に経験された事と思いますが、県内外を問わず会合や宴会に出席し、安来出身とわかると必ず安来節を聴かせて欲しいと要望があります。チョット早めの手拍子にのせて、軽やかなリズムで歌えるようになればいいと思います。会場は和やかな雰囲気になること請け負います。地元安来節を大切に育てて行きたいと思っています。

支 部 情 報

ひびけ唄声 世界の空へ



東伯支部

支部を設立して30年！

“三味の音色と小節に惹かれ唄い続けて30年”
昨年度30周年を迎え、会員同志でささやかな祝賀親睦の集いを開催しました。

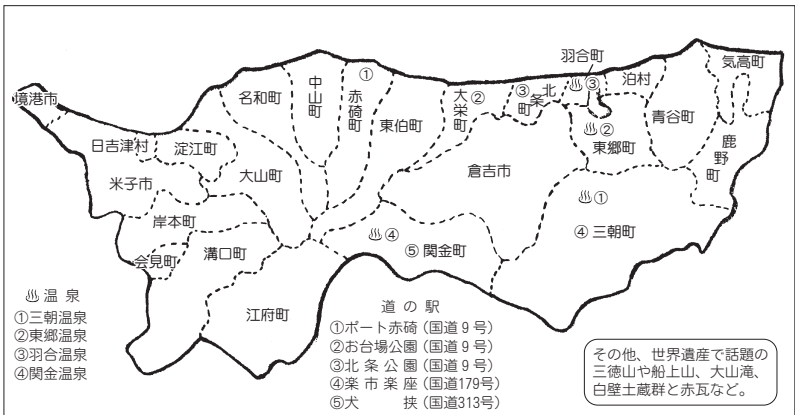
発足時は東伯町内20人余りの会員でしたが、現在では鳥取県の真ん中、倉吉市、東伯町、北条町、赤碕町、三朝町、羽合町、東郷町、大栄町の1市7町が支部の区域で、会員数80名です。広域範囲の為に日頃の練習は、8ヶ所の教室に分かれて自主的な練習方法で技術の向上に努めています。

日々の活動としては、安来節の素晴らしさを聞いて頂こうと、市や町の文化的祭典や福祉事業の諸行事には、それぞれが積極的に参加して喜ばれています。特に今年の5月と6月に2回、倉吉未来中心主催の「アトリウムライブ」楽演祭に出演し、多くのファンに喜ばれました。

このような行事に参加することで、安来節の魅力を紹介し、又会員同志の技術の向上にもつながっていると思います。

今後の目標としては、他の民謡団体や踊のグループなどと交流を深め、安来節のファンの増加を図り、会員を増やす活動も進めたいと思います。

最後に支部内の観光PRをさせていただきますので、一度お立ち寄り下さい。



松山支部

20年のあゆみ

昭和57年、四国の地にはじめて支部の開設の認可を頂き、松山支部として活動を開始してからは、家元三代目渡部お糸、二代目安達順吉先生には特に親しくご指導を頂きました。

松山支部
石岡 邦 宏



本年は支部創設20周年にあたり、9月16日に二代目安達順吉・仲前長治・原文男・渡部皆江先生をお迎えし、松山市民会館・能舞台で盛大に記念大会を行いました。

山陽、四国、岡山地区の各先生、地元愛媛民謡民舞協会の先生方にもご協力頂き、会場は立見が出るほど大入り満員の中、支部創設者故渡部紫師の追悼式典を行い、懐かしいテープを拝聴し先人の努力、苦勞に感謝いたしました。

会員もだいぶん力がつき、少年部をはじめ、中級、上級の部でも優勝大会で入賞できるようになり、今後が益々楽しみです。

宴会の席での隠し芸にとはじめて「どじょう掬い」がいつの間にか三味線の音色や奥の深さに惹かれ、得意とする科目になりましたが、音色はその時の体調、精神状態、道具のしつらえ具合、会場によって毎回微妙に違い、如何に良い音が出せるかが勝負だと思います。

この夏にはNHK地元放送局のテレビ取材を受けました。また、ラジオでの全



国ネット放送にも取り上げて頂き、福山市等からの問い合わせが来るなど、20周年記念にふさわしい年となり、これを機に安来節の楽しさをより多くの方に知って貰えたのではないかと思います。

今後は会員増大と技術の向上、全国優勝大会での優勝に向けて、更なる努力をして行きたいと思っております。

中国地区チャンピオン!! 全国大会出場へ

日本民謡協会代表への道

野々村府美枝 (本部道場)

安来節全国優勝大会師範の部において、二年連続優勝(平成十年、十一年)。その数ヵ月後、この日民の大会に出てみてはと薦めを受けました。当時、私はとても大きなプレッシャーを両肩にずしりと乗せて、出場はしたものの結果は…。

三度目の正直とはよく言ったもので、今回は気持ちに多少の開き直りと、無心な気持ちでトライしました。

大会当日、早朝四時三十分

に我が家を出発。夜がまだ明

大きな鼓動へと変わって行きました。

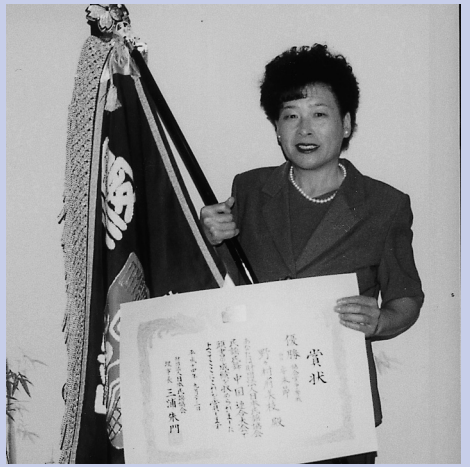
この大会の素晴らしいのは、年齢別各層に分け(寿年部、成年部、全六部門)その中で各優勝者を決めて、最終的に六名の優勝者が協会賞争奪戦へと進むのです。

私は壮年部の優勝者として最終戦へと進む事になりました。私は郷土民謡を代表する「安来節」を唄いました。一八〇余名が全国津々浦々の民謡を唄われる中で、一人の持ち時間は僅か二分間なのです。一八〇余名の一人一人が、この二分間に全力投球するので

す。「多寡が二分間、されど二分間」なのです。

いよいよ最終審査の発表の時が来ました。いくら開き直ったといっても、この瞬間の時の思いは言葉に言い表しがたいものです。

「野々村府美枝さん!!」私の名前が発表された時の瞬間の緊張が、やがて涙に変わっていききました。うれし涙に…。



本部道場・野々村府美枝さん

このコーナーは
会員の皆様の紙面
ですので、随時原
稿をお寄せ下さい。

会員の声コーナー



東京支部長
棚橋 保

イスラム文化圏での 親善交流

一九九一年ソ連崩壊後、中国の西で独立した中央アジア諸国のほとんどがイスラム社会である。中国新疆ウイグル自治区も同様であり、改めてイスラム社会を含め、世界をとらえ直す必要性を痛感した。

中国西域のシルクロードは、中国、モンゴル、インド、イランそして遠くローマなどと政治経済文化が交差したルートであり、新疆はもともと重要な役割を果たした。そして現在人的、物的交流の大動脈として見直されつつある。

私達はそのシルクロードの要衝地のトルファンでウイグル族の方々と交流する事になった。トルファンの東北には長さ十



五km幅五百mにおよぶ葡萄溝があり、その一角の葡萄棚の下で行われた。

ウイグル族の歌舞は西洋のバレエと、そしてヴァイオリンの原点であり時空を越えて伝播された気がする。

また安来節の鼓も中央アジア、中国、日本へ伝わってきたものである。ただし、馬が交通手段であり、数種類が豊富だったからである。

親善交流を通して見知らぬ地域の人々、地理、歴史、文化、風俗、習慣を知る事は、人生を限りなく豊かにし、平和の大切を心の底から教えてくれるものと再認識した所です。

私の安来節との出会い



本部道場
永田三和子

私の幼少の頃は、お祭りといえば集落の道角に幟が立てられ、鎮守の森から神主様の奏でる笛や太鼓の音が聞こえ、心うき弾んだものです。各家庭ではお客様を迎え、お祭り料理をご馳走に酒宴が始まり、やがて宴もたけなわになると、手拍子で安来節を唄い始めるのです。

その頃の私は、自分が安来節のとりこになるとは夢にも思いませんでした。安来節との第一の出会い

は、母方の叔父の美声ではなかったかと思えます。第二の出会い

は、子育ても終わり町内会婦人部の旅行の折、安来節の素晴らしいさに再度心を打たれ、皆で習う事になったことです。だんだん練習するにつれ、難しくなり学ぶことが多く、奥深くなる反面、安来節が取り持つ縁で数多くの人々と、出会いの輪が広がりました。人生苦しい時、嬉しい時、いつも私の側で勇

気づけられるのが愛する安来節です。お腹の底から発生して唄う時、知らず知らずの内に心体が癒され、無の境地になる幸せをしみじみ味わうようになりました。

安来節を育まれた素晴らしい先生方にも恵まれている私達は、本当に幸せだと思えます。昨年の民謡サミットに

会し、改めて北は北海道、南は沖縄の民謡を聞きながら、再度安来節の素朴で奥深く力強く、人の心を打つような郷土民謡は他に類を見ないのでないかと感じました。安来節は単調素朴な中に奥深い味わいを持ち、数多くの民謡の中でも、格調高い物として形成され全国的にも唄い親しまれている、日本民謡の代表的な物と思えます。

今後益々保存会が発展し、そして安来節が平和日本の使節となり、世界に羽ばたく事をお祈り申し上げます。

掲 示 板

みんなで唄う安来節

平成十四年十一月十日安来市文化祭協賛行事として、「みんなで唄う安来節」(安来節保存会本部道場主催・西村利美道場長)が、安来市民会館大ホールにおいて盛大に開催されました。

今年は、安来市立第二中学校の生徒二十八名(二年生・三年生)が「どじょう堀い・女踊り」を生伴奏で行い、緊張しながらも個性豊かな踊りで客席を楽しませてくれました。

また、第十九回素人安来節コンクール・第十回素人どじょう堀いコンクールに

盛り上げました。

最後には、家元四代目渡部お糸さんと名人、准名人による安来節で文化祭に華を添えられました。

なお、入賞者は次のとおりです。

第十九回 素人安来節コンクール

優勝 古沢直子
二位 桑原宣子
三位 中村つや子

第十回 素人どじょう堀いコンクール

優勝 細田健太
二位 山本浩治
三位 森 大輔

みんなで唄う安来節



本部道場は現在三百六十三名在籍しておられますが、地域の行事や公民館教室、素人コンクール等を開催し、日夜会員の増大に努めておられます。

第 4 回

全国民謡サミット 民謡の祭典

<山中温泉大会>

平成14年11月22日(金)・23日(土)



唄 野々村 美枝 さん(右)
(本部道場)

絃 山 根 明 郎 さん(中)
(大東支部)

鼓 扇 泰 江 さん(左)
(益田支部)

昨年、当市で第三回を開催してから早いもので一年が経過し、今年は扶桑三名湯の一つである、石川県山中温泉にて山中座開設記念事業の一環として開催されました。

初日は、十一月二日にオープンしたばかりの山中座で、理事会・総会がありました。そして、パネルディスカッションでは「民謡のこころ・そして未来」と題して安来節保存会より島田二郎市長もパネ

ラーとして参加し、活発な意見交換が行われました。

二日目は会場を山中町社会教育文化会館に移し、地元の子供達による和太鼓や山中節のオープニングで開会し、出演した十六団体の参加者は、自慢の美声と日本一の歌声を楽しみに来ていた観客に、しっかりと聞かせてくれました。

なお、安来節は次の方に披露して頂きました。

事務局からのお知らせ

行事予定

(平成15年1月1日(水)～9月30日(火))

唄い初め会

1月10日(金)
午前10時より・安来市民会館

各支部資格審査会

2月16日(日)～5月5日(月)

お糸まつり

4月6日(日)
午前10時より・安来公園(演舞場)
※4月1日(火)～10日(水)は
桜まつり開催予定

師範昇格審査会

第1回 5月11日(日)
第2回 5月17日(土)
第3回 5月18日(日)
第4回 5月25日(日)
第5回 6月1日(日)
午前9時より
安来市立中央公民館

優勝大会地区予選会

6月15日(日) ▼岡山地区・米子地区
6月22日(日) ▼本部地区・鳥取地区
6月29日(日) ▼益田地区・出雲地区
7月6日(日) ▼石見・浜田地区
広島地区

全国優勝大会

8月15日(金)～17日(日)
午前9時より・安来市民体育館
15日(2級・1級・少年の部)
16日(初段・二段・三段・准師範)
17日(師範・団体の部)

指導部員紹介

この度、指導部員に選任されましたので報告します。



一字川 勤
(本部道場)
踊・鼓の部
大師範

新支部設立

支部名 広島比治山(ひじやま)支部
支部長名 金満芳子
住所 広島市南区東雲本町二一〇二
電話 〇八二二二八二二〇一〇

支部名変更

新支部名 山口西京(さいきょう)支部
旧支部名 宇部支部

しおり(平成十四年度版)に次の誤りがありました。

●追加 103頁 加茂支部 (敬称略)
二級唄 陶山めぐみ

限定
残りわずか

<安来節保存会創立90周年記念>

安来節懐かしの名人選曲集



★ C D 3,000円
★ カセット 2,500円

収録されているのは、初代から三代の渡部お糸、初代・二代の出雲愛之助、初代木山つる子など錚々たる顔ぶれ。(全21曲)

申し込み先 安来節保存会事務局
TEL 0854-23-8220
FAX 0854-23-8221

安来節保存会 東京支部

支部長 棚橋 保

安来節保存会東京支部

事務局
東京都新宿区西新宿7-7-7
ハイライフ西新宿316号

TEL 03-3361-0488
FAX 03-3361-4293

東京上京の折
安来節のご指導
いただける方、
左記へご連絡
下さい